

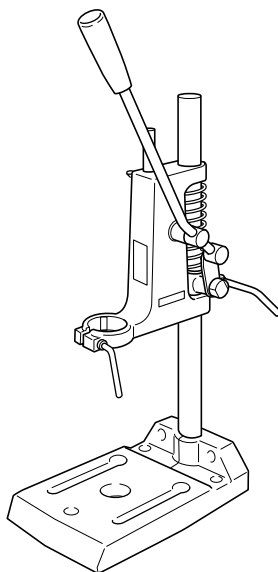
# HiKOKI

## ドリルスタンド

### D10-DS2

## 取扱説明書

このたびは弊社製品をお買い上げいただき、ありがとうございました。  
ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。  
お読みになった後は、いつでも見られる所に大切に保管してご利用ください。



本製品は日本国内用のため、日本国外で販売または使用することはできません。日本国外で使用した場合は、仕様上の性能を発揮できない恐れがあります。日本国外では、修理または保証を受けられません。

This product may be used only in Japan and should not be sold or used in any other country. Otherwise, product may not perform as intended. No authorized service or warranty is available outside of Japan.

# 目 次

	ページ
ドリルスタンドの使用上のご注意	2
各部の名称	3
仕 様	4
用 途	4
組 立 て 方	5
作業前の準備	6
ご使用前に	7
使 い 方	8
保 守 ・ 点 検	9
ご修理のときは	裏表紙

---

## **⚠警告**、**⚠注意**、**注** の意味について

ご使用上の注意事項は「**⚠警告**」、「**⚠注意**」、「**注**」に区分しており、それぞれ次の意味を表します。

**⚠警告** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容のご注意。

**⚠注意** : 誤った取扱いをしたときに、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容のご注意。

**注** : 製品のすえ付け、操作、メンテナンスに関する重要なご注意。

なお、「**⚠注意**」に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載しているので、必ず守ってください。

# ドリルスタンドの使用上のご注意

本ドリルスタンドは、4 ページに指定した弊社電気ドリル専用のスタンドです。これらの電気ドリルを取付けて安全にご使用いただくために、次に述べる注意事項を守ってください。

## ⚠警告

- ① スタンドのベースを付属の木ねじで作業台にしっかりと固定してください。  
しっかりと固定しないと、はずれたりし、けがの原因になります。
- ② 電気ドリルや付属品は、取扱説明書に従って確実に取付けてください。  
確実でないと、はずれたりし、けがの原因になります。
- ③ 材料が錐により振り回されないように、バイスや角のみ部品セット（別売品）のバイスなどを使用して、しっかりと押さえてください。  
とくに穴あけ作業では、錐の抜けぎわに材料が回されることがあります。  
しっかりと押さえないと、材料が回されて、けがの原因になります。
- ④ 使用中は、回転部や切りくずを手や顔などを近づけないでください。  
けがの原因になります。
- ⑤ 使用中、機体の調子が悪かったり、異常音や異常振動がしたときは、直ちにスイッチを切って使用を中止し、お買い求めの販売店に点検・修理を依頼してください。  
そのまま使用していると、けがの原因になります。

## ⚠注意

- ① 使用中は、軍手など巻き込まれる恐れがある手袋を着用しないでください。  
回転部に巻き込まれ、けがの原因になります。
- ② 穴あけ直後の錐や切りくずは高温になっているので、触れないでください。  
やけどの原因になります。
- ③ 回転させたまま、放置しないでください。  
けがの原因になります。

# 各部の名称

図 1 はドリルスタンドの部品の名称を示します。

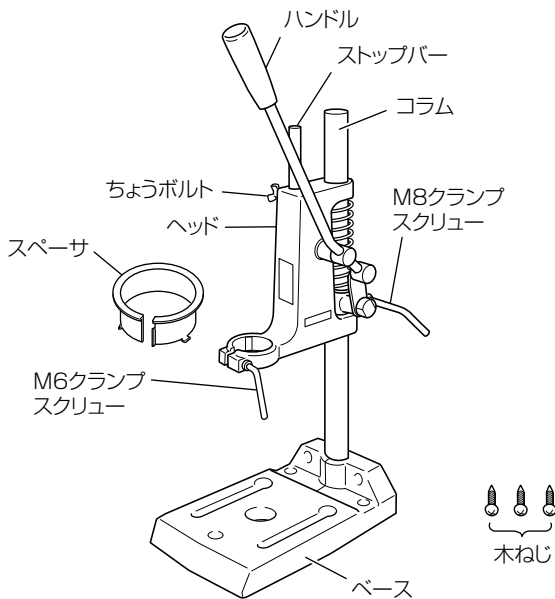


図 1

# 仕 様

## ●ドリルスタンド

コ ラ ム の 高 さ	450 mm
ド リ ル 保 持 部 径	43 mm (スペーサは不要です) 42 mm (スペーサを使用します)
穴 あ け 能 力	木工 21 mm 鉄工 13 mm
錐 の 最 大 送 り	60 mm
ス イ ン グ	225 mm
ドリルチャック端面より ベース面までの最大離距	200 mm
ベ ー ス 作 業 面	約 160 × 170 mm
質 量	3.7 kg

## 適用電気ドリル

最大穴あけ 能力(鉄工)	ドリル 保持部径	形 名 (*付は旧機種種です)			
6.5 mm	43 mm	* D6V	* D6V1	* D6V2	* FD6SA
	42 mm	* DL - 1F	* DL - 1FA	* FD - 6C	* FD - 6D
10 mm	43 mm	D10SC	D10VH	DW30	DW30B
		FD10SA2	FD10VA2	FD10VST	FDV12V2
	42 mm	FDV15V2	* D10SD	* D10VE	* DMT - 10
		* FD10SA	* FD10VA	* FDV12V	* FDV15V
	43 mm	* FV12V	* FV12VA		
		* DL - 1G	* DL - 1GA	* DL - 118	* DL - 118A
13 mm	43 mm	* FD - 10B	* FD - 10C	* FDV - 10	* FDV - 10A
		D13VJ	* BUW - SH3	* D13TA	* D13V
		* DMT - 13A			

# 仕 様

電気ドリルをドリルスタンドに取付けて木材や金属の穴あけができます。

**注** • ドリルでの穴あけ用です。穴あけ以外には使用しないでください。

# 組立て方

## ⚠警告

- 万一の事故を防止するため、必ずスイッチを切り、さし込みプラグを電源から抜いておいてください。

## ⚠注意

- 取付けや取りはずしの際、錐で手を傷付けないよう十分注意してください。

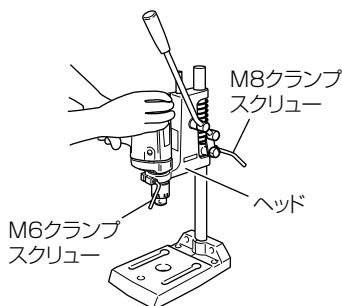


図 2

### 1. 電気ドリルを取付ける………

ドリルスタンドのハンドルを上下に操作する際、ハンドルに電気ドリルがぶつからないようにヘッドの穴にさし込んでください。つぎにM6クランプスクリューを右に回して締付け、電気ドリルを固定してください。(図2)

### 2. ドリルチャックで錐をくわえる…

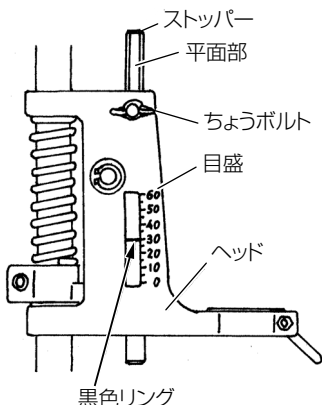
錐はチャックハンドルでドリルチャックにある3つの穴へ順々に入れて均等に締付けてください。

チャックハンドルを右に回せば締まり、左に回せばゆるみます。

### 3. 穴あけ深さの調整………

ヘッドに目盛がついていますので、ちょうボルトをゆるめ、ストッパーを上下させ、黒色リングをこれから穴あけしようとする深さの目盛に合わせて、ちょうボルトで固定してください。

目盛量は、錐先と加工材のすき間分だけ所要の切込み深さに加算して、調整してください。(図3)



※図はヘッドの移動量が30mmの場合を示しています

図 3

## 注

- 穴あけ作業をする場合には、必ずちょうボルトを締付けてください。
- ストッパーを固定する場合は、必ずストッパーの平面部をちょうボルトで押すようにしてください。

# 作業前の準備

## 1. センタポンチを打っておく……………

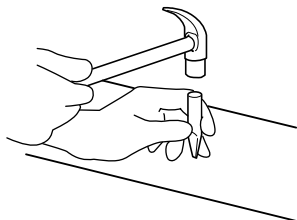


図 4

鉄工錐を使って金属に穴をあける場合は、穴あけ位置に前もってセンタポンチを打っておきますと、錐先がすべらず安定して穴をあけられます。(図4)

## 2. 切削油を付ける……………

金属に穴あけするときは、ミシン油や石けん水を筆や歯ブラシなどで錐につけると錐が長持ちします。木材のときは油をつける必要はありません。

## 3. きれいな穴のあけ方……………

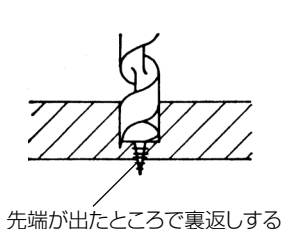


図 5

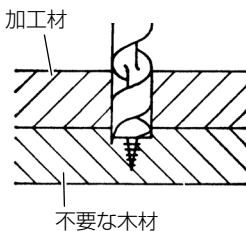


図 6

通し穴をあけるとき、錐の先端が裏にちょっと出たときに、裏返して裏側からあけるときれいにできます。(図5)

または、下側に不要な木材を置き、一緒にあけてください。(図6)

# ご使用前に



- ご使用前に次のことを確認してください。1～3項については、さし込みプラグを電源にさし込む前に確認してください。

## 1. 使用電源を確かめる……………

必ず銘板に表示してある電源でご使用ください。表示を超える電圧で使用するとモーターの回転が異常に速くなり、機体が破損する恐れがあります。また、直流電源で使用しないでください。製品の損傷を生じるだけでなく、事故の原因になります。

## 2. スイッチが切れていることを確かめる……………

スイッチが入っているのを知らずにさし込みプラグを電源にさし込むと不意に起動し思わぬ事故の原因になります。スイッチは引くと入り、はなすと切れます。

スイッチの引金を引き、はなしたときスイッチが戻ることを必ず確認してください。

## 3. 刃具などの締付けを確かめる……………

ドリルチャック、錐などが十分締付けられているかどうか確かめてください。

## 4. 電源コンセントの点検……………

さし込みプラグをさし込んだとき、ガタガタだったり、すぐ抜けるようでしたら修理が必要です。お近くの電気工事店などにご相談ください。

そのままお使いになりますと過熱して事故の原因になります。



# 使 方

1. スイッチが入っていないことを確かめ、さし込みプラグを電源にさし込みます。
2. 電気ドリルのスイッチを引き、ストッパを押してください。

指をはなしてもスイッチは入ったままになっておりますので、切るときは再びスイッチを引いてからはなしますとストッパがはずれます。(詳しくは電気ドリル本体の取扱説明書をお読みください)。

3. 錐が勢いよく回転しましたら、スタンドのハンドルを静かに下側に引いてください。
4. 切りくずが調子よく出る程度にハンドルを引いてください。

必要以上に力をかけても決して早く穴はあきません。かえって錐先を傷めて作業能率が低下するだけでなく、本機の寿命も短くなります。

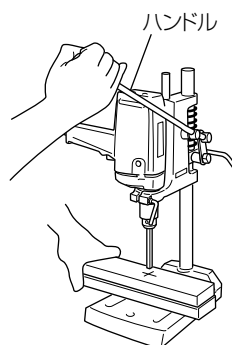


図 7

# 保守・点検

## 警告

•点検・手入れの際は、必ずスイッチを切り、さし込みプラグを電源から抜いておいてください。

### 1. 錐の点検……………

切れ味が悪くなった錐をそのまま使用になりますと、モーターに無理をかけることになり、また効率も落ちますから早めに刃とぎを行うか、新品と交換してください。

### 2. 各部取付けネジの点検……………

各部取付けネジでゆるんでいるところがないかどうか定期的に点検してください。もしゆるんでいるところがありましたら締め直してください。  
ゆるんだままお使いになりますと、けがなど事故の原因になります。

### 3. 注油について……………

ドリルスタンドの回転部や摺動部には、ときどき機械油かマシン油などを注油をしてください。

### 4. 製品や付属品の保管……………

使用しない製品や付属品の保管場所として、下記のような場所は避け、安全で乾燥した場所に保管してください。

- お子様の手が届いたり、簡単に持ち出せる場所
- 軒先など雨がかったり、湿気のある場所
- 温度が急変する場所
- 直射日光の当たる場所
- 引火や爆発の恐れがある揮発性物質の置いてある場所

このような場所  
には保管しない。

---

メ 毛

---

# ご修理のときは

修理・お手入れ・お取扱いのご相談は、まずお買い求めの販売店にご依頼ください。  
転居や贈答品などでお困りの場合は、商品名・品番をご確認の上、お近くの営業拠点へ  
お問い合わせください。

## お客様メモ

お買い上げの際、販売店名・製品に表示されている製造番号 (NO.) などを下欄にメモしておくと、修理  
を依頼されるとき便利です。

お買い上げ日	年	月	日	製造番号 (NO.)
販売店 (TEL)				

## 全国営業拠点

お客様相談センター ※土・日・祝日を除く 9:00 ~ 17:00

●フリーダイヤル

 0120-20-8822

※携帯電話からはご利用になれません。  
携帯電話からはお近くの営業拠点にお問い合わせください。

※長くお待ちする場合があります。  
お急ぎのときは、お近くの営業拠点に直接お問い合わせください。

●営業本部 TEL (03) 5783-0626	●北陸支店 TEL (076) 263-4311
●北海道支店 TEL (011) 896-1740	●関西支店 TEL (0798) 37-2665
●東北支店 TEL (022) 288-8676	●中国支店 TEL (082) 504-8282
●関東支店 TEL (03) 6738-0872	●四国支店 TEL (087) 863-6761
●中部支店 TEL (052) 533-0231	●九州支店 TEL (092) 621-5772

■営業所の移転等により、上記電話番号に連絡がとれない場合は、  
下記のアドレスにアクセスすることで、最新の全国営業拠点  
をご確認いただけます。

<http://www.koki-holdings.co.jp/powertools/sales.html>

WEBに  
アクセス

バーコードリーダー機能付きの  
携帯端末より読み取ることで、  
最新の全国営業拠点をご確認  
いただけます。



# 工機ホールディングス株式会社

〒108-6020 東京都港区港南2丁目15番1号 (品川インターシティA棟)  
営業本部 TEL (03) 5783-0626 (代)

電動工具ホームページ — <http://www.koki-holdings.co.jp/powertools/>